



八幡小だより

北九州市立八幡小学校
校長 田頭 麗宏

140th
anniversary

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」を、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として実施いたしました。内容は「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」です。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

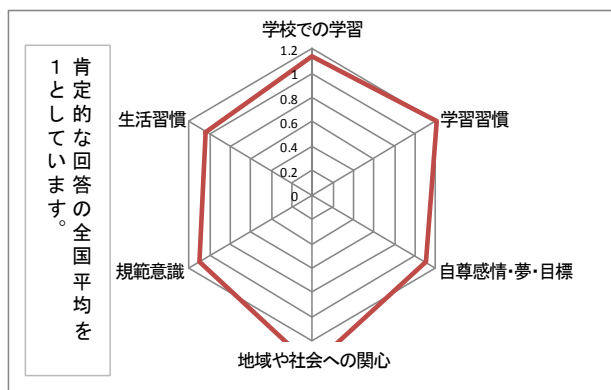
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・全体的によくできており、基礎的な力がついている。特に漢字の書き取りが5問中4問で全国の平均正答率を上回っている。これは朝学習の時間や学1タイムなどを活用した日頃からの積み重ねが実を結んでいると考えられる。また、慣用句の意味を理解し使う問題の正答率も全国平均よりかなり高い。	上回っている
国語B	・全体的によくできており、9問中6問で全国平均を上回っている。特に話合いの様子に関わる問題については、全国平均をかなり上回っている。これは、学習中に話合い活動を積極的に取り入れ、互いの意見を聞きあう環境が教室にできているからだと考えられる。一方で自分の考えや意見を文章でまとめることに本校の課題がある。	上回っている
算数A	・全国平均を下回っているが、計算はできている。数量関係においては、全国平均を若干上回っている。小数のかけ算・わり算の意味理解や活用について課題が残る。特に円に関する問題では、円周率の求め方や直径と円周の長さの関係で誤解答が多く見られた。小数を整数に置き換えたり、実際に数字を入れて確かめたりせず、文章だけで考えていくために誤解答が多くなっていると考えられる。	下回っている
算数B	・示された情報を表に整理し考えることや、グラフの読み取りや関連付けの正答率が特に下回っている。複数の条件が重なったときに、その条件を読み取ることができない児童が多くいると考えられる。必要な情報を選び、活用していく力をつけるために、日常の授業の中で、いくつかの資料やグラフを対比させながら考える活動を意図的に位置づけていく必要がある。	下回っている
理科	・全体的に下回っていた中で、正しく実験する方法についての設問は正答率が高かった。一方で動物や植物のつくりを主とした「生命」の分野については正答率が下回る設問が多くあった。人間の体や筋肉のつくりや他の動物との相違点などの理解に課題が残る。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・自尊感情が高く、自己肯定感も高い。また、地域行事にも積極的に参加している。
- ・授業時間以外で1日当たり1時間以上勉強をしている児童の割合がかなり高い。一方で、家庭で予習・復習をしている児童の割合は80%に満たない。
- ・「放課後や週末に何をして過ごすことが多いか」の設問に対し、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」と回答した児童の割合がかなり高い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・朝の時間の「明日への伝言板」や「暗唱詩集やはた」を活用した全校暗唱は継続して取り組んでいきます。
- ・ユニバーサルデザインを意識し、一人一人の児童に確かな学力をつける授業づくりに努めていきます。
- ・話合い活動の充実を図り、小集団や全体で話し合うことで考えを深めたり広げたりできるようにします。その際に、分かりやすく説明する方法について考えられるようにしていきます。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「家庭学習を1時間以上している」と回答した児童の割合が全国平均に比べて高いです。しかし、「予習・復習をしている」児童は70%程度で、宿題に時間がかかっている児童が多くなります。また放課後や週末にDVDやテレビを見ている児童や、ゲームをしている、YouTubeを見るなどインターネットをしているといった児童の割合が高いです。このことから、家庭でも時間の使い方を見直し、計画的に学習を進める力を身につけ、将来の夢や目標の達成に向かって努力し続ける子どもの姿を目指していきます。
- ・中学校の定期考査に合わせて「家庭学習チャレンジ週間」を設定したり、自学ノートのモデルをオープンスペースで紹介したりする取り組みを充実させ、家庭と連携しながら家庭学習のさらなる向上を目指していきます。